

島スクエアと地域活性化

NPO法人島スクエアプラス 理事長
元大島商船高等専門学校 特命教授

山本 信夫



山口県東部地域において地域資源を活用して起業や事業承継に取り組もうとする個人やグループに対し、必要な知識・技術の習得、ネットワークの構築等の支援、活力ある住みよい地域づくりを進めている。

第23回全大教高専教職員研究集会（2014年3月21日）特別講演より

1. 事業の概観

文科省から事業委託を受け、地元周防大島町の地域再生計画と連携して、大島商船高専が取り組んできた「科学技術戦略推進費地域再生人材創出拠点の形成山海空コラボレーションみかん島再生クルー」の愛称が「島スクエア」です。地域資源を活用する起業家の育成と地域活性化がその目的で、島を救おう、皆の集うところ（広場）にしようという意味も込められています。

5年間の事業の初年度（2008年度）は、準備の関係で、10月から起業家養成基礎（島）コースをスタートさせ、3月のフォーラムをもって終わりました。2年目は基礎コースの実践・発展形として観光型体験起業（海）コース、商品開発起業（山）コース、Web動画クリエイター養成（空）コースを用意し、以後もこの4コースを中心に行っています。なお、毎年受講者のニ

ズをアンケートや聞き取りという形で調査して改善を図り、3年目に特別講義、UJIターン集中講座、島スクエアジュニア講座、修了生の情報提供・共有化ということでニュースレターの発行も始めています。4年目は修了生同士の交流や情報共有と起業支援体制づくりを兼ねて情報交換会を行うとともに、起業準備・実証の場と地域交流・活性化を目指して安下庄海の市をスタートさせています。5年目は最終年度ということで、事業修了後の修了生起業支援や起業教育の場として大島商船高専島スクエア起業教育研究センターを開設し、合わせて、修了生の起業実験・実証の場として島スクエアふれあい市場を始めました。また、修了生支援と地域活性化の取り組みを目的としたNPO法人設立に向けて準備をスタートさせています。

この5年間の取り組みで修了生は191人となり、終了時点で48組（人）が起業や事業承継に漕ぎ着けています。そういった成果もあってか地元周防大島町・柳井市・山口県・大島商船高専から助成を受けて、これまでの4コースを再編成して、2013年度も実施しています。

以上がこの6年間の概観ですが、その中で修了生の起業に向けての支援体制という視点や大島商船高専独自の地域貢献活動として、今後も続けていくことを念頭に取り組んできている事業について補足します。

2. 安下庄^{あげのしょう}海の市

周防大島は金魚の形をした島といわれますが、へその辺りに位置する安下庄地域で、①修了生の起業準備・実証の場、②修了生の活動拠点、③地域の活性化を目指して、2011年2月から地元漁協や関係者と協議を重ね、同年11月に第1回海の市を開催し、現在まで毎月1回（2014年3月で29回）実施してきているものです。第22回は大雨洪水警報が出て中止しましたが、海辺の空地にテントを借りて設営し、実施してきましたので、風雨や寒暖の影響が大きく、テントが海に飛ばされるというアクシデント等も体験しなが

ら、今日まで島スクエアスタッフや修了生を中心に、地元漁協青壮年部や出店者と連携・協力して運営を続けてきているところです。平均来場者約 800 人（島外が 6 割以上）、一回あたりの出店 25～30 組（人）で、年間を通して見れば単独のイベントとしては島内最大の集客数となっています。修了生の出店は 17 組（人）です。こうした取り組みを通して、いわゆる牡蠣小屋とよばれる巨大なビニールハウス風の施設が漁協青壮年部の手によって設置され、合わせて固定式テントや組み立て式テントも 20 組用意されてきています。自前の牡蠣養殖もはじまり、農産物等の出店者も増えてきており、継続することでこれまでにない動きが出てきています。

課題としては、風雨対策のための固定施設の設置や運営の中心となっているスタッフへの賃金保証です。現在は、全員がボランティアでの運営となっています。



3. 島スクエア起業教育センターとふれあい市場

このセンターは、周防大島の金魚の形の頭部にあたる小松地域に、廃校となった県立田布施農業高校大島分校の実習棟を借り受けて、①起業家養成のための起業教育と研究、②起業の相談、③起業に向けた実験・実証の場、として 2012 年 11 月に開所したものです。



また、ふれあい市場は、①修了生の起業準備・実証の場、②修了生の活動拠点、③地域交流とふれあいの場として、センター開所に並行して開催し、2013 年 3 月で 9 回目（奇数月実施）となります。島スクエアスタッフと修了生で運営委員会を構成し、これまでの出店者は 56 組（人）で修了生は 37 組（人）です。一回の来場者が約 370 人、出店 30～35 組（人）で、海の市に比べて来場者が少ないのは広報を地元に絞っていることによります。よって、来場者の大半が地元の方です。今後は拡大していく方向で検討しています。この取り組みを通して、センター自体の活用も増えてきており、修了生の起業相談に加えて、山羊ネットワーク、海藻肥料の活用、無料ネットビジネス教育講座の開設等、新たな取り組みも出てきています。

課題としては、実験店舗としての機能の向上、2 か月に一度という設定のしかた、期間限定か継続かという方向性の決定、地域との交流・ふれあいの場としてのあり方、などがあがっています。

4. 島スクエア次世代育成講座（島スクエアジュニア）

地 域の将来を支える人材として、こども達に「考える力」「創造する力」「挑戦する力」を醸成していくことを目的に、2009年度から準備をはじめ、2010年度試行、2011年度から実施してきました。特に、次世代起業集中講座は高校生や高専生といった若者を対象にしており、修了生は海の市やふれあい市場等の運営にも関わり、高齢者ネットカフェの開設やネットビジネスの研究にも取り組んでいます。出前講座や親子発明教室・こども科学スペースと合わせて、島内の各学校と連携し、人材育成のしくみとして機能するように進めてきているところです。そのことは、海の市やふれあい市場に体験・学びの場として、地元の小・中・高校生や高専生・看護学校生・大学生が参加していることにも見られます。その中で、こども科学スペースは、2011年商船祭に合わせて学校の体育館の4分の一を使ってスタートしたものが、翌年は2分の一、2013年は全面という形で拡大し、約200人のこども達が参加しています（2013年5月現在島内の小学生は528人）。運営を学生が担っており、こども達とふれあうことは学生にとってもよい体験になっているものと思いますし、高専の教育力を活かすことができる場でもあります。



5. N P O 法人島スクエアプラス

2 013年10月、修了生支援と県東部地域活性化を目指すN P O法人を修了生と島スクエアスタッフが中心となって立ち上げました。起業には時間がかかりますし、さまざまな課題もあります。1人だけでは起業意識・意欲も希薄になり断念することもあるかもしれません。今後、一人でも多くの修了生が起業を実現していくことが、雇われない生き方（新たな雇用）や地域資源の活用につながり、ひいては地域の活性化にもつながっていきます。島スクエアプラスは、そういった力になることができればと思っています。

6. 高専教育に期待

今 回は、全大教高専教職員研究集会の特別講演ということでしたが、これまでに取り組んできたことを報告という形で、できるだけ多く写真や資料を使って説明させていただきました。少しでも高専教育の参考になればと思っています。

終わりにになりましたが、大島商船高専に限ってみても、地域社会における存在や期待は大きいものがあります。県東部の唯一の科学技術系高大一貫の高等教育機関であり、島内の全小学生よりも多い学生という若いマンパワーがあります。高齢者のU J I ターンの決め手は福祉と自然環境ですが、若い世代は働く場と教育環境です。科学技術系の分野を中心に、地域社会にさらなる教育支援・技術開発・文化啓発を期待しております。